



※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

第 10 回 KOBEカンタービレ・コンサート開催！

2018 年 10 月 7 日（日）に、神戸市産業振興センターハーバーホールで、第 10 回 KOBE カンタービレ・コンサートを開催しました。1 週間ぐらい前から、台風が来て中止にせざるを得なかったらどうしようという不安を抱えていましたが、当日台風は日本海の北の方をかすめて通り過ぎ、晴天の中、無事開催することができました。

N 委員と元奨学生でコロンビア・日本ルーツの現在大学 1 年生の D さんの司会で、コンサートは開演しました。樋口大祐実行委員長の挨拶の後、サクソフォンカルテットコパンの女性 4 人の方による、第 1 部はやさしい音色のクラシック、第 2 部はディズニーの曲や童謡、ラテンメドレーなど、立奏で動きながら元気で楽しい演奏がありました。

サクソフォンカルテットは初めての方も多かったようですが、「若々しくハーモニーが綺麗だった」、「演奏時の合間の曲の紹介など客席との一体感が良かった」、「明るくて楽しかった」、「コパンの CD がほしいです！」などのご意見をいただき、非常に参加者の方に楽しんでいただけたようでした。

またコンサートの幕間には奨学生がステージに上がり、司会者の質問に答える形で学校生活の様子や日本に来てからのことについて観客の皆さんに語りました。参加者の方からは、「いろんな事情で日本に来て、厳しい社会の中で若い人達が頑張っている姿勢に感動しました。微力ながら応援できればと思っております」、「奨学生の飾らないコメントが良かった。高校生として普通の生活ぶりが分かりました」、「多様性は力」。その力を発揮するためにサポートをとというのは本当にその通りだと共感しました」、「元奨学生の司会も良かった」などのご感想をいただき、少しずつですが支援の輪の広がりを実感することができました。

ホールのロビーでは、「定住外国人子ども奨学金」の設立経緯や活動内容を紹介するパネルを展示し、演奏終了後のロビーでは奨学生を中心に募金への協力をお願いなどを行い、多くのご寄付もいただくことができました。

今回も趣旨にご賛同いただき多くの方にご協力いただきました。素敵な演奏をしていたコパンのみなさま、賛助広告、後援、協賛をいただいた団体・個人のみなさま、また当日ご参加いただいた多くのみなさまに、この場を借りて御礼申し上げます。

（事務局 Y.S.）

奨学生からのメッセージ

A さん (11 期生)

「私が生まれた国、フィリピン」

私が知っているフィリピンという国は、貧富の差が激しい国です。一方、大半の人は宗教を信じており、私はそれを誇りに思います。全員ではないですが、困難に遭っても信仰している宗教を頼りにして、何とか生活をしている人もいます。私は物やお金で人を幸せにすることはできない、人と人が関わり合うことで幸せだと感じるのだと思います。

私の住んでいたところは建物が少なく、道路もしっかり整備されていませんでした。ですが、みなさんに知られているセブ島などは海が透き通っており、とてもきれいです。道路が整備されていないため、渋滞は日常茶飯事です。フィリピンはよく台風がきます。建物はしっかりしていないので台風が来たときは被害が大きくなります。

小学 4 年生の頃、一時帰国した時、私のいとこや近所の子どもたちはゲーム機などであまり遊ばず、よく外に出て体を動かして仲良く遊んでいました。それを思い出すと幼少期にもどりたいという気持ちが大きくなります。

全体的に見ると、日本もフィリピンも体を動かして遊ぶ子どもたちが減り、テレビゲームばかりしているように思います。それを見ると、段々コミュニケーションが減り、何だか怖くなっていくし、悲しくなります。今の自分にできることは、友達と遊んでいる時や、人と一緒にいる時はなるべく携帯を見ずにコミュニケーションを取ることでいいと思います。

フィリピンの文化で一番好きなのは、家族を何よりも一番大切に考えるところです。正直、日本ではそういったことをあまり感じられず、自分も家族を大切にすることが欠けていると思います。なので、もっと家族とコミュニケーションを深め、家族の大切さに気づこうと思います。

私は、国籍がフィリピンで良かったと感謝しています。

U さん (11 期生)

「2018 年の漢字『災』」

最近、2018 年の漢字は「災」と発表されました。実際に地震や台風などといった自然災害がとても沢山起こった年だと私は思いました。ひとつずつ深くみていくと自分で体感したことや、友達が体感したことはすごく怖いことだなと思いました。

一つ目は、「大阪府北部地震」です。震度六弱という大きな地震でした。神戸の南部にも地震の影響があり電車が止まったりしました。私の友達の話では、家が断水し、停電が三日も続くという状態だったと聞きました。私はまだ、一度もそのような体験をしてないので、とても怖いと思いました。日常生活が困難になるのは辛いなと思いました。

二つ目は台風です。今年の台風は二十五年ぶりに非常に強い勢力で日本に上陸しました。それは「台風二十一号 (チェビー)」という大型の台風です。家にある小さな小屋の屋根が剥れ落ちました。船が関西国際空港連絡橋に激突するという大きな被害がありましたが、数週間で橋が直ったので日本の技術はとても凄いなと思いました。

三つ目は北海道で起きた「北海道胆振東部地震」です。死傷者数が約 790 人にのぼり、たくさんの人が悲しい思いをしました。土砂崩れが起き、水道水が止まり、道は元の形が無くなるなど、多くの

人々を困らせることが起こり、生活が困難になりました。しかし、各地で募金活動が行われ少しでも復興ができるように環境が整えられました。それを見ると早く元の生活に戻したいという気持ちは凄いなと思いました。

こうした多大なる被害について述べましたが、思ったことが二つあります。

はじめに思ったことは、今年の漢字に決まったのは「災」でしたが、やはり一番適している漢字だなと思いました。

もう一つは、ガス、電気、水がないと人が生きていくのは難しいということに気付かされました。私たちは普段当たり前にあるものとして認識してしまっていますが、それがなくなってしまうとその存在の大切さに気づかされます。私たちは頼りっぱなしだったなと実感させられました。このことを忘れることなく今後は節電、節水を心がけていこうと思います。受けた被害はとても悲惨なものばかりでしたがその分、得たものもとても大きいものだとは思いました。

T さん (11 期生)

「今、私が思っていること！」

今、日本では外国人労働者の受け入れ拡大が大きくとりあげられています。入国管理法改正案が衆議院を通過し、参議院での審議に入りました。2018 年 12 月 10 日の国会会期末までの可決は確実な情勢です。政府がこの国会で行おうとしていることは、これまで「外国人の単純労働は認めない」という、日本が長年続けてきた入管政策の大前提を変えることです。

私の両親は、インドシナ難民として日本に受け入れられたベトナム人です。ベトナムにいと将来が保障されませんでした。日本で定住し平和で安定した生活を送る事ができました。現在は難民として日本に受け入れられる人は少ないと聞いています。しかし、日本の優秀な技術や文化などを身につけたいと考える外国人は多いと思います。また平和で安全な生活を願って日本にあこがれを抱いている人もいます。

厚生労働省の集計によると、日本には約 127 万人の外国人労働者が働いています。少子高齢化が進んでいる現在の日本社会は、過疎地域の働き手不足が深刻な問題となっています。政府は外国人労働者の受け入れを増やし、初年度に最大 4 万 5750 人、5 年間で最大 34 万 5150 人を受け入れるとその試算を提示しています。また、受け入れを予定している 14 業種は、5 年後には 145 万 5000 人が不足する見通しだといわれています。それらの人材を確保するためには、どうしても外国からの労働力に頼らなければならないと思います。

現在、外国人技能実習生として来日している人が多くいます。彼らは母国での生活水準が低く、日本で得た賃金を仕送りすることで家族を養っている場合が多いと思われそうですが、実際の待遇面では低賃金で単純労働や重労働を強制されている人がいるといわれています。実際にそこから逃げだして行方不明になっている実習生が 5000 人以上いると聞きました。

私は、今後外国人労働者を日本が受け入れていくのであれば、受け入れる前に細やかな法整備をして、日本に来て良かったと思えるようにしてほしいと思います。そしてチャンスがあれば、私の家族のように日本の社会で一家が安心して暮らせるような道が開けることを願っています。

N さん (10 期生)

「ルーツのある国の美点・欠点」

僕のルーツのある国はブラジルです。僕の祖父母が明治時代にブラジルに移住し、母が出稼ぎで日

本に来て僕を産みました。日本とはかなり友好的な関係で、関わりも多いのですが、僕の周りでは、あまりそんな印象がないと感じました。グローバル化が進んでいるとはいえ、まだまだ日本人はせまい考え方をしている人が多いのだなと思いました。

ブラジルの良い所は、何ととっても美しい大自然です。透き通った青い海や様々な動物がいる森や河があります。世界一の流域面積をもつアマゾン川にはピラニアやピラルクーといった特徴的な魚がいます。実はカワイルカもいたりするそうです。僕が個人的に好きな所は、レンソイス・マラニャンセス国立公園というところ。見渡す限り広がる大砂丘、そして雨季には湖が出現するのです。そして、その湖は雨季の終わり頃にしか出現しないのですが、どういうわけか、魚やカエルが現れるのです。この不思議な現象ははっきりとは分かっていないそうです。それが僕が好きになった理由です。

今度は悪い所で、個人的に印象的だと思ったのが、治安の悪さです。もちろん、全ての都市が、危険というわけではありませんが、世界でもトップクラス、一部では世界一とも言われているナタールやフォルタレザといった街が国内にいくつかあったりして、完全に安心して過ごせるというわけではありません。他には、陽気で活発すぎるぐらいの国民性からか、リオのカーニバルなどの祭りでは、酒やその熱気で暴力事件が起こり、死者が出ることも少なくないと聞きます。僕の母から話を聞くと、チカンのような性犯罪が目立つそうです。こんな風に聞くと嫌なイメージが湧いてきますが、良いところももちろんいっぱいあって、日本人街という日本との深い友好関係を表すものもたくさんあるので、悪印象だけを持つことはありません。

こうして自分の国を見てみると、やっぱり日本とは違うなと改めて感じました。日本にも良い所、悪い所があります。もちろん他の国にもあります。自分の国では常識なことが、他の国ではマナー違反だったりもします。それでも、どの国も魅力があり、比べることなんかできないとも感じます。皆違って皆良い、という言葉思い出しました。

V さん (10 期生)

「THE TRUE COST」

あなたは自分の服がどうやってできたのか、誰の手によって作られたのかを考えてみたことがありますか。あなたは服を買う時「この値段は高すぎる!」「このTシャツ◎円だからお得!」というようなことを考えたことはありませんか。多分ほとんどの人は「そんなことを考えるのは当たり前でしょ。」と答えると思います。しかし、私の作文を読んでその判断は本当に必要なのか、本当に正しいのかも一回考え直してみてください。

最近の流行である「ファストファッション」。一年を五十シーズンくらいに分けて短いサイクルで商品が変わり、とても安くおしゃれな服のことです。ファストファッションが安くて、トレンドなので消費者にとっても好まれています。H&M、TOPSHOP、FOREVER21、GU、GAP、などのブランドがどんどん発展しています。しかし、その安さの裏には、労働者の汗、涙、血があるのです。なぜなら、服を安くするために、ファストファッションブランドは賃金が低いインドやバングラディッシュのような発展途上国に工場を建てます。さらに、労働者をとても危ない状況の中で長時間働かせ、最低賃金も払わず、一か月十ドルくらいしか払わないところが多いのです。しかし、発展途上国の人々は生きていくために毎日自分の健康、自分の命を削って、私たちが着る服を作っているのです。だが、私たちは服が安いからといって、すぐ新しい服を買ったり、まだ使える服を捨てたりしています。今、環境破壊の2番目に大きな原因はファッション産業のゴミです。私たちの服を大量に買う習慣のせいで、ファッションブランドは大量の服を毎日生産するようになりました。大量の服を作るために大量のコットンなどが必要です。大量のコットンを収穫するために殺虫剤を使わなければなりません。大量の殺虫剤を使うことは地球だけではなく、農業従事者にもとても悪い影響を与えます。殺虫剤の毒性で重い

病気になったり、使い始めた殺虫剤の使用量が増えた結果、負債が重なり土地を没収されたりします。そのせいで過去 16 年間でインドでは農業従事者が 25 万人以上自殺（72 分に 1 人の割合）しました。また、生産された服は、10%しか売れず、残りは発展途上国に捨てられ、200 年くらい分解できない状態のままです。このことを私は「THE TRUE COST」という映画で知り、考え方を変えました。

ですから、次回、あなたも服を買う時に、「これは誰の命からできたのか」「これは地球に影響を与える」ということを考えて責任を持って購入するようにしてください。

K さん (10 期生)

「大学受験に向けて」

高次の二学期はもうすぐ終わりです。残りは修学旅行と終業式です。高三に向けて選択科目は決めました。

四月からは、いよいよ高三です。

大学進学は決めました。けれども、まだ心の準備ができていないと思っています。大学生として、充実した四年間を過ごしたいのです。もちろん大学にいる間に資格を取る予定です。

いろいろな国に関心を持っています。国際経済について学びたい気持ちもあります。

今、大学の選択に悩んでいます。受験の方法もいろいろあります。例えば、AO 入試、センター入試、一般入試など。大学の学部については知らないことも多いです。

高校時代は青春時代です。学校生活や部活は、本当に楽しい。

私は ESS にいました。高一の時、文化祭で英語劇をしました。たくさん時間をかけて、友達と一緒に力を合わせました。いい英語劇になりました。

これからは、受験に向かって精一杯努力しないといけないと思います。

今の生活を振り返ると無駄な時間を過ごしていました。ひとつはスマホです。スマホに振り回された自分を反省しています。

受験に向かって、大切な時間を有効に使います。

今、勉強方法を考えています。1 ヶ月、1 週間そして 1 日の勉強の内容を決めます。毎日の終わりに目標に達しているか確認します。振り返る事が大切です。

この時間を悔いることのないように、努力をすることが次の目標につながっていくと信じています。

P さん (9 期生)

「出会いの大切さ！」

今生きている人生の中で私たちは様々な人たちと出会ってきました。生まれたときから出会った人たちに影響を受け、今の自分が存在しています。それは親の影響、祖父母、親戚といった家族からの影響。また友達、先生などという社会的人物からの影響。このように様々な人から私たちは影響されています。

フィリピンで生まれた私は家族の影響でキリスト教に触れていました。キリスト教の教えに従って私は日々を送っていました。学校にも通い始め、社会からの影響を受けました。しかし、ある日、私は日本にきました。当時の私は幼かったため、日本という国、環境を知りませんでした。初めて日本に来た私は戸惑い、言語が違って、文化が違って、マナーも違い、何もかも全てが私の慣れていた環境とライフスタイルではなかったです。何も知らなかった私はこれから苦勞する人生になるというこ

とにも気付きませんでした。

私は公立の小学校に行っていたため、全ての授業が日本語で行われていました。言語の壁を感じ、授業に参加する事が出来なかつただけでなく、クラスメイトと話すこともできませんでした。友達がなかなかできませんでした。私が一人ぼっちでいた時に他のクラスの人が話かけて、日本語を教えてくださいました。一人ぼっちで楽しくない日々を送っていた私が人間の温かみを感じました。その人のおかげで友達も増え、日々が楽しくなりました。もしもあの時、その人が私に声をかけてくれなければ、今のように勉強をがんばっていないだろうと、あの時出会えて本当に良かったと思いました。

私はそのあと転校し、中学に進学しました。中学校では小学校と違った苦しみを味わいました。勉強ももちろん大変になり、苦しみました。私は同じ学校の人と相性が良くありませんでした。そのせいで学校に行く気力がなくなり成績にも悪い影響が出て来ました。そのように落ちこぼれていた私でしたが、学校外の友達ができ仲良くなりました。その人との出会いで私は自分を変えようと思い、何かに挑戦するようになりました。最初は楽しくなかった学校生活が楽しくなり、勉強にも取り組むようになりました。おかげで高校に入学することができました。

高校では今までと違って、自分が積極的になり、様々なことに挑戦するようになりました。世界について考えたり、社会問題に興味を持ち始めてリサーチをしたりするようになりました。小学生や中学生の時に会った人たちのおかげで今の自分が存在していると思っています。自分のポテンシャルが見えなくなっていたときに私を信じてくれた人がいるからこそ乗り越えることが出来ました。この人たちのおかげで、私はグローバル化していく社会の中で多くの人の力になれるよう様々な問題の解決に近づけるよう日々がんばっています。

K さん (9 期生)

「地元の伝統な祭！」

僕の地元では、北条節句祭りという伝統的な祭りがあります。この祭りでは、各町ごとに神輿を担いで、まちをまわります。また、神輿を担いでいる間などは掛け声や笛を吹いたり神輿を上下に揺らしたりと凄く迫力があります。神輿の装飾などもとてもきれいで見どころのひとつです。

節句祭りでは、鶏の神様を祀るので節句祭り中は鶏肉などを食べてはいけないというルールがあります。

僕が節句祭りで一番好きなのは神輿が神社に入っていくところです。神社に入る時に担ぎ手の男達が大きな声で掛け声をかけ、その場がいきなり盛り上がります。また、夜になれば、神輿に明かりが灯り始めそれを見るのもとても楽しいです。暗くなっても太鼓の音や笛の音が響き渡り夜の雰囲気マツチしていて最高です。

節句祭りは本当に地元の祭りという感じで K 市の僕の住んでいる地域しか神輿を担がないのに K 市全体が盛り上がるというような、そんな地元愛のあふれる祭りです。僕はそんな祭りが好きで、地元のみみんなで盛り上げてワイワイ楽しめることがとても素晴らしいことだと思っています。他の地域でも似たような祭りもあるだろうし、有名な祭りでは地元の人々だけでなく他の地域の人々や観光客も参加し、祭りを盛り上げているので、地元の節句祭りもそうやって欲しいです。また、他のまちに住む人や節句祭りに行ったことがない人、節句祭りのことを知らない人にもその素晴らしさを伝えてあげたいなと思っています。節句祭りをきっかけに K 市の良さなども伝えていき地元の K 市を今以上に盛り上げてあげたいなと思っています。

最後に僕が生まれ育った K 市にはたくさんの魅力があり、K 市に生まれて K 市で育って良かったなと思っています。

G さん (9 期生)**「受験から学んだこと！」**

私は、日本に来てから自分の夢を持つことが出来ました。それは看護師になることです。その理由は、病院にはベトナム語が通じる看護師さんがあまりいないからです。

私は、小学校二年生の時にベトナムから来日しました。家族にとって日本での暮らしは大変で、特に病気の時の病院でのやり取りは苦労したようです。日本語が話せるようになった私は通訳として度々、家族の診査に同行したことがありました。休日だけではなく、平日も学校を遅刻してまで病院に付き添いました。学校が大好きな私は「病院にベトナム語が通じる看護師がいたらどれだけ助かるだろう」と思うばかりでした。その時から、人を当てにするのではなく自分がその看護師になろうと強く思い続けていました。そう決めてから私は日本語を含めて、看護師になるために勉強を続けてきました。春から通い続けてきた塾では過去問を解き直したり看護の専門学校の情報なども集めてきました。学校では、先輩達の受験体験談にしっかり目を通して、いきたい学校の情報などを把握しました。放課後には先生に夜遅くまで面接の練習に付き合ってもらいました。くじけそうになった時もありましたが歯をくいしばってがんばりました。そのお陰か、私が受けた3校中の2校に合格することができました。一つ目は岡山県にある学校で、二つ目は家から通える距離にある学校です。二つ目の学校の倍率はとても高く 120 人中 10 人くらいしか合格できません。その中に私が入っていることが今でも信じられません。あきらめずに最後までやり通すことがこんなに大事なことなのだと、今までで一番強く感じられました。そして何事にも無駄がないということも学びました。あの時の悩み、迷い、決断があったから今があります。

そして、この三年間、この奨学金制度が支えてくれたから私は自分の夢を叶えることができたのです。本当にありがとうございます。これからも、立派な看護師になれるよう専門学校でがんばり続けます。